

## 令和7年度 第3回 タウンミーティング（概要）

○開催日時 令和8年1月8日(木)午後2時30分～3時30分

○開催会場 江南市役所 第2会議室

○開会あいさつ

市長 皆さんこんにちは。本年度も3回目ということで、先回は赤十字奉仕団の皆さん方と、その前は江南高校の生徒さんで行いました。ときには中学生であったり二十歳の集いの実行委員であったり、国際交流協会の皆さん方であったり子育てママであったり、様々な方々とお話をさせていただいております。今日はこども食堂ということで、皆さん方とは初めての会話になろうかと思いますが、忌憚のないご意見また要望等ありましたら、ぜひお願いをしたいなと思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。

○出席者と市長の意見交換

市長 子供たちの福祉事業に対してのご苦労や、活動内容をお聞きしたいと思っております。今日は限られた時間でありますので、自己紹介していただきながら、例えば子供の居場所づくりの問題であったりとか、地域の交流の場であったりとか、目指すこども食堂の姿であったりとか、運営上の課題ですね、こういったことがあれば、ぜひお聞きしたいと思っております。自由に発言をしていただければ結構です。堅苦しくなくやわらかい雰囲気で行いたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

出席者① 私は空と海こども食堂で、江森町にあるカフェのKOTIをお借りして、もう10年、こども食堂をやらせていただいております。寄付とか社協さんからお声掛けいただいて、地域の方に、大変お世話になっております。食材に関しては、本当に助かっておりますし、隣に福祉施設がありまして、その職員がボランティアで、朝から夜8時9時まで、活動いただいておりますので、まずそこが人材に関してもう少しボランティアの方が募ればありがたいなと思っております。以前、2、3名の方がボランティアで来ていただいていたんですけど、体調不良であったり、高齢であったりとかで、現在1名残っているだけで、あとは少ない職員の3名、4名で60人、70人の来ていただいている方の対応をしておりますので、まずはそこかなと思っております。

出席者② 平成27年ごろから長くやらせていただいております、現在は尾崎町にあります、きまぐれカフェというところ、自分がオーナーをやっておりますので、その場所を間借りして、こども食堂を月1回やらせていただいておりますが、今、30名前後ぐらいの方がお越しになってまして、自分の知っている限りでは半分ぐらいが貧困と障がいのある方かなと思っております。いろいろ地域でちょっと問題があるかなと思う方もいらっやあって、江南オーリーブこども食堂の色としては午後6時半に本来のこども食堂の内容が終わった後、本格的な相談の時間を取ってまして、地域の中で困っている方とか、親子、母子家庭であるとか、それからお子さんが障害であるとか、不登校とかですね、そういったような地域の中での困りごとを聞くという時間を、長いと午後11時ぐらいまで取らせていただいて、いろんな方が屈託なくしゃべっていただけるような環境を作らせていただいております。うちはですね、ボランティアさん多くて、今8名いまして、当時お子さんにちょっと困りごとのある方が多かったせいなのか、私よりもよっぽど来ていた

いてる方の困りごとに上手にフィットしているので、地域の困りごとをこのボランティアさんが拾い上げているっていうイメージです。今3歳ぐらいから上は高校生まで、子供さんだけで単独で来る方もいれば、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にコミュニティとして来る方とか、障害のある大人の方とかもいらっしやったりして、特に制限を設けてないので、無料ですし、いろんな方に来ていただいている印象を持っています。

出席者③ ドルフィンキッチンと申します。私たちは就労継続支援B型事業所を運営しております。祝日のときに開催をさせていただいております。大体3年から4年ぐらいの歴史であります。B型事業所なので、通われている利用者様と地域の方やお子様、いろんな方との交流を目的とやらせていただいております。ドルフィンキッチンともう1つ、江南団地のところにあるオーディンキッチンも同日に開催をしております。教育委員会の後援をいただいているので、小学校、中学校にチラシを配布させていただいております。その効果もあり、割とたくさんのお客さん、多いと100名以上来ていただいております。どうしてもゴールデンウィークだったり夏場の暑い時期とかにお客様がちょっと少なくなってしまうのはやむを得ないんですが、その時に準備していた分をさばききれなかったこともあるので、そういった課題もあります。あとはボランティアの部分で、ドルフィンキッチンとオーディンキッチンのお店でやっていますので、うちの職員と利用者様と、その日だけ来る障害をお持ちのボランティアの方が通われております。

出席者④ そらいろキッチンです。3年目を迎えました。私たちは場所が宗教施設を使っております。そのため、当初チラシを作って、門弟山小学校などに配布をお願いしたんですけど、特定の場所だということでお断りされてしまって、子供たちの口コミで今だいたい20~30名ぐらいの方に来ていただいています。ただちょっと問題がありまして、うちの子供が6年生で、来てくださる方は小学校が主体なんですけど、子供がこれから中学校に上がるとその下が続いていかない感じがあります。多いときは60名ぐらい来てくれたんですけど、それが続いていかない、減ってきているという感じです。ボランティアに関しては、皆さんとちょっと違って、中学生から今年だと80歳の方まで来てくれて、ちょっと悩みを持った方も見えるんですけど、少しでも何か役に立ちたい、口コミで私もやりたいという感じで、日によってボランティアの数もバラバラですが、好きな時間にきて好きな時間に帰るというスタイルをとっています。

市長 宗教団体の誘いがあるんじゃないかと思われて断られてしまうということですか。

出席者④ もう宗教というだけで、やっぱりそういう目で見えてしまう方から、学校が特別扱いしているんじゃないかと言われてしまうといけない、例えばチラシに教育委員会とか後援があればと言われて、結局SNSとかでしか発信ができなくて、あとはチラシを地域の人にできるだけ配る、せっかくやっつけても知っていただくことがちょっと難しい、これは今の私たちの課題ですね。

出席者⑤ みんなの食堂ラ・ポーズSUNと申します。2024年度の8月から開始をしまして、1年ちょっと経っているところになります。場所は特別養護老人ホーム第2ジョイフル江南の1階の地域交流センターにて行っております。人数としましては、毎月30名~40名の方にご参加いただいています。多世代の交流と貧困対策を目的としてみんなの食堂という名称で、どの世代の方にもお越しいただけるようにしております。現状は、お母さんと小さいお子さんが来るのがほとんどですけれども、最近は中学生の男の子たちが5、6人でグループを作って、来てもらえるようになってきています。江南団地が近いですから、そのあたりの少し困っているようなお子さんたちにも来てもらえないかという思いもあったんですが、なかなかそこまでは至らず、現状はどちらかと

いうとお母さんたちの交流の場になっているような状況でございます。私たちのところもやはりボランティアが課題となっておりまして、地域の河野町にチラシも2回ほど配布をさせていただいてるんですが、なかなかボランティアしたい方もお見えにならず、学校にチラシも配布をさせていただいてるんですけど、立地的に行きたいという方もいらっしゃる状況で、昨年の暮れから大学の学生さんで来たいという方がお1人いたんですけども、施設まで来る足がないということで、江南駅まで施設の職員が迎えに行き、ボランティアに来てもらっている状況ですので、その辺りの少し交通の便が良くなると、よりボランティアの方も迎えやすくなるかなと感じております。

出席者⑥-1 社会福祉協議会です。江南社会福祉協議会には調理施設がないので、キッチンカーをレンタルして、キッチンカーで子ども食堂を始めたのが令和4年度、令和6年度から始めた子ども食堂は、毎月1回土日のどちらかに開催するというものになります。そもそも子ども食堂に着手したところとしましては、社会福祉協議会の、生活困窮者の自立相談支援事業で、お金に困った方の相談支援をしているんですけども、コロナ禍によってその相談件数が相当多くなった時期がありまして、その中で、ご飯が食べられない、お金に困っている、そういったところをつなげることができる場所として始めたというのがきっかけになります。キッチンカーで始めたとき、ご飯の提供はできたんですが、居場所がなかなか提供できないところがあったので、令和6年度から、しっかりと拠点を構えて実施をする、食と居場所を提供するんだということで、ボランティアの方にもご協力いただいて、学習の支援しかり、子供の見守りも協力を得ながら、大学生、主婦の方、多くの方と社会福祉協議会の職員が一緒になって、この場所を作り上げていっています。

出席者⑥-2 社協として支援の方ですと、助成金も制度として設けていますので、申請をいただいている団体さんも多数ございます。あと食材の寄付も、市民の方、企業さん、団体さんも、社会福祉協議会へ問い合わせがありますので、我々がハブとなりまして、子ども食堂の皆さんのところにお声掛けをして、お渡しをすることもございます。あと、キッチンカーの方でいきますと、来年度からどうするかというところもあります。継続していく方向ではありますけれども、月1回やっている子ども食堂とどのように折り合いをつけながらやっていくのか考えながら思っているところです。

市長 キッチンカーの経営状況はどうなんですか。

出席者⑥-2 キッチンカーは経営ではなくて赤い羽根共同募金を財源として実施しています。今3年やっていますが、このままずっと続けるのかどうかという話もあります。今は、このコミュニティセンターで行っていますが、来年からは新しいウィステリアプラザに移転するので、そこには調理できる場所がないので、皆さんは、調理ができる環境の中でやれますが、ないところに関しては、食事提供するときの衛生環境も課題があって、子ども食堂をやりたくてもできないということもあるかと思えます。

市長 なるほど、わかりました。一通り簡単にお話を聞きましたけれども、楽しいこと嬉しいことがあったとか、例があったならば教えていただけませんか。

出席者① うち、子ども食堂を名乗ってはいるんですけども、どちらかというところと触れ合いの面が強いのかなという感じで、高齢の方、お母さんとお子さん、子供だけで来ることはほとんどなくて、近所の方ばかりなので、今日この人来てないねとか、最近元気ないねとか、そういった触れ合いや会話が生まれてくることで、地域の方には良い環境ではあるのかなと思えます。

市長 大体同じような地域の方が集まって見えますか。

出席者① そうですね、場所的にも車で来れるんですけど、高齢の方に関しては、以前は送迎もさせていただいておりましたが、今は迎えに行くまでの距離の方がいらっしゃらなくなったので行ってないんですけども、嬉しかったことはやはり、お母さん方から、お子様が食べられない食材を、例えば、にんじん食べれなかったんですけど、ここへ来るようになったらみんなが食べてるので食べてくれるようになりましたとか、食育も兼ねて、例えばカレーとか、季節に合った春であればちらしずしとかの由来を作って、それをお子様に配って、料理が出るまで読んでくださいね、と提供しています。それを最初は持って帰らない方が多かったんですけど、今はちゃんと持って帰ってファイリングしてますと言っていたのが、とても嬉しかったです。

出席者② 個人的に嬉しかったことは、相談とかいろいろ日々されるんですけど、自分もともと相談員で、つなげる仕事をしているので、そういう意味でいろんなところにつながった後に、結果報告してくれる方が結構いらっしゃって、例えば不登校だったけど学校に行けるようになったよとか、何とかクラスの中にも入れるようになったよとか、何よりも、きまぐれカフェの利点を生かして、ビュッフェタイプの食事で温かいものをその場で好きなだけ取って食べられますので、子供さんや親御さんたちもおいしいって言いながら、冬だと温かいものを囲んでそこでできるネットワークで、親同士のつながりとか子供さんのコミュニティーとかができて上がって、それで友達のいない方が、友達はどこでできたんだってということで、月に1回楽しみで来ていただいたり、あと不登校のお子さんが学校には行けないけどここには来れるんだって言って、人と人のつながりと、地域の中のこども食堂に関わった人が仲良くなってくというネットワークができるところが、すごくこれからもワクワクしているところです。

市長 相談事が非常に多いということが、そこにあるのかもしれませんが。

出席者② 例えば役所に行って話をするのはハードルが高い、自分の身近な方だと自分の個人情報ばれてしまうのではないかと相談しづらい、そうなったときに、例えば私のような人がいて、個人情報守りますという相談先があれば、ここだったら何とかしてくれるかもしれないって、人から人の口コミでつながっていて、来られる方の多くは悩みごとのある方で、それを聞いてもらえるから、つなげてもらえるかもしれない、そういう思いがあって来られていると感じます。

市長 悩み事をみんなに相談をしながらということも時にはあるんですか。

出席者② ありますね。特に不登校のお母さんとか本人さんも来るんですけど、こういうことで嫌だったとか、こういうことがあるから学校に行けないって言うと、似たような環境のお母さんたちと共有したりすることもよくあります。

市長 不登校の子に限っては、今学校でも支援教室があったり、You・輝があるんだけど、それでもどうしても行けない子、今はもう無理して行かなくてもいいよという時代になってきている中で、共通した意識が比較的作りやすい場所を提供されていて、多分きつと喜んでみえると思います。

出席者③ B型事業所という障害を持った方が、お仕事に来るところでもあります。お仕事の一環としてこども食堂をやることで、その地域の方との交流が、やっぱり人と接する

ことが苦手な人が多い中で、利用者様が普段よりもたくさんの人数を相手に頑張ってやっていると、すごくいいなと思います。常連の方がよく来てくださる中で、最近ですと中学生だと思うんですけど、お食事されるのはもちろんなんですが、ゲームのお手伝いをしてくれたり、自発的にいろんなことを手伝ってくれる生徒さんもいたりしてありがたいです。あとは基本的に江南市の方がメインに来られていると思うんですけど、中にはインスタグラムを見たとか、口コミで来ましてっていうお声を聞くと、とても嬉しかったです。

市長 B型就労支援の利用者さんが、こども食堂では、日頃の仕事上でのいろんなコミュニケーションとは違った形のコミュニケーションだとか、信頼関係も生まれやすくなることもあるんでしょうか。

出席者③ そうですね、中には最初はこども食堂は出たくないっていう利用者様もいたんですけど、最近になって今度やってみたいっていう声も聞こえたりするので、多分他の利用者様から聞いてそれで自分も挑戦してみようかなという方もいたりするので、普段ランチも営業してるんですけど、そこに来るお客さんとはまた違った客層のお客さんが見えるので、そういう交流がすごく刺激になっていると思います。

市長 こども食堂という食事をするだけ、また少し遊びながらということ以外にもいろんな役割を持ってみえるので、一概にこども食堂がこういうものだっていうのがなかなか表現しにくい。それぞれの事業所、こども食堂の特質みたいなものがあるって、それを楽しみながら来ていただいているということなんじゃないかな。

出席者④ 私たちは本当に民家みたいな感じでやっていて、喫茶店とかそういう場所じゃなくて、家で作ったのを提供する形をとっているのが家庭的な感じが強いことが特色で、たまに学校で読み聞かせもしてるんですけど、お母さんと言われてたり、間違っただけで先生って言われたり、そういう身近な感じで呼ばれるのも、個人的には嬉しいと思いますし、ボランティアの中で80代の方が去年1年間闘病されてたんですけど、その方が自分も役に立ちたいと頑張って12月から復帰されたこともすごく嬉しいですし、ボランティアも日曜日に来てくださっていることも嬉しいと思っています。また、2時から3時まででは遊びの時間ということで、毎月いろんな形の遊びをやってます。1月は年1回のビンゴ大会で、景品も寄付で賄えたので、それもありがたいと思っています。

出席者⑤ 実施場所が特別養護老人ホームになります。地域の方に自然と足を運んでいただきたいという思いも持ちながら運営をしています。うちは1食100円いただいているんですけど、受け付けを利用者の方にも一緒にしていただいておりますし、認知症の利用者の方と子供が少し交流しているような場を見ると、すごくいいなと感じておりますし、そういったことが自然と福祉教育につながっていくとも思っていますので、そういったことが増えていくといいなと感じているところです。

市長 福祉施設ですので、確かサロン活動もしてみえますよね。サロンにお邪魔したことがあって、高齢の方々が椅子に座って輪になって手をつないでいろんなことを体操しながらやりましたけれども、それの子供版みたいな側面もあったりして、やっぱり人と人との交流とか、福祉教育が自然とできるんじゃないかということで、大切なことだと思います。

出席者⑥-1 こども食堂を始めた最初は利用者さんが来ないというところが、ほかのこども食堂さんも本当に悩みながらやられてるところは多分共感いただけると思うんですけど

ども、本当に徐々にですね、あの場所を認知して、この場所が、学校でもなく家でもない、居場所なんだと認められていくのが本当に時間をかけてやってきているところだと思っています。人数も増えてきたのは嬉しいところではあるんですけど、その中で紐解いていくと、やっぱり何か課題を抱えているご家庭なんじゃないかっていうところ、まだ私たちは関係を築けていないので、そこまで入り込めていないところが課題なんですけれども、毎回子供さん連れて来てくれる方がいらっしゃるんですね、その場は楽しそうに過ごしてらっしゃいますが、その方と打ち解けられるような、相談がしあえるような関係になればいいなと思いつつ、期待を込めて開催をしています。一方で社会福祉協議会として、ボランティアセンターでボランティアのコーディネートをするという機能があります。いろんな学生さんであったり、それこそひきこもりの何か活動して社会に参加したいっていう方をこども食堂のスタッフとしてつなぐこともしているんですね。その時に、今まで支えられる側だったんですけど支える側になるだとか、そういう場面、いろんな方の変わる場面が社会福祉協議会で見えてくることが多くあるので、そういった人が変わる瞬間っていうのはすごい嬉しさを感じるとともに、先ほど寄付が社協に来て、皆さんのこども食堂につなぐという機能も同じく、農家さんが寄付をしたい、何かをしたいんだっていうところで、実際につないでいく場面も非常に社会福祉協議会ならではの嬉しさにつながっているんじゃないかと思っています。

出席者⑥-2 私たちのこども食堂の居場所に関しては、こうなん子ども応援団ぽつけさんとか、NPO 法人東海つばめ学習会さんと連携していて、居場所としてやりたいとお声掛けをさせていただいたら、ぜひ協力とか一緒にこういったことができるとい話にもなっていたので、こども食堂自体がいろんな団体さんにつながっていく1つの方法でもあるんじゃないかと思っています。

市長 そうですね。今日はこういう形でお集まりいただきましたけども、サロンですとサロンカフェでいろんな裾野をやってる人たちがお見えになって、お互いに情報交換をしていますけど、こども食堂の中でこういった集まりはあるんですか。

出席者⑥-2 それがサロンは、毎年やってるんですけど、実はこども食堂の皆さんがこうやって一堂に会するのは、初めてです。

市長 少しずつ立場が違うというのも何となくわかりますけれども、でもその中で食事を提供することが基本で、中には相談事があったり、悩み事を聞いたり、学校との関係であったり、地域との関係であったり、共通する部分もひょっとしたらあるのかなと思うんですけども、いわゆる経営面で、オリーブさんは無償でやってみえると言ってましたね。経営的に非常に苦しいとすると、例えば食材集めとか、社協さんの方で何か協力体制みたいなものはあるんですか。

出席者⑥-2 そうですね、社会福祉協議会が実はこども食堂を支援するというより、全国的には行政、例えば愛知県だったりとか、そういうところが全国的には多いかなと思います。フードバンクとか、フードドライブとか、フードパントリーという考え方もあるんです。ここに倉庫を置くので、その食材から持って行ってくださいということをやっているところもあります。どういうふうに仕組みとしてやっていくかは、多分これから考えていかないといけないことかなとは思っています。

市長 社協さんとしての立場としてはそうやって進めていかないといけないというのはあるんですけども、方法論はなかなか難しいですね。

出席者⑥-2 個々の活動のニーズというか課題を解決するのは個々の対応になるので、なかなかそれを社協ですとか行政の方に、要望という形で出してもなかなか難しいところはあるのかなと感じます。個人的な所感ですけども、今日初めて集まって皆さんの課題やいろんな要望を吸い上げるところがなかなかないということであれば、年1回でもこうやって顔を合わせて意見交換をして、例えば今日ですとボランティアの話とか、小学校へのチラシ配布のこととか、このチラシ配布も後援名義を取る取らないとか、学校へのチラシ配布はいろんな細かい配慮が必要になってくるんですけども、個々ではなくて例えば、ネットワークというか連絡会があって、そこを経由して、江南市全体でこども食堂するときには、チラシもそれぞれの団体じゃなくて、その連絡会で市に申請して後援名義いただくことで、この連絡会からだったら学校にチラシ配っていいよとかできるようになるかなとか、やっぱり学校にチラシを配るのが結構皆さん大変だと思うので。あとボランティアの方も、ボランティアセンターとかそういうところと募集の発信をすることも、考えていくことができるかなと皆さんのお話を聞いて思ったところです。広報活動も一緒にやれば、周知としては広がっていくので、そうするとまたこども食堂をやってみたいという方も増えるかもしれないと思いますが、そこにはいろんな調整が必要かと思っております。

市長 本来江南市が行政としてやらなきゃいけない部分もあるのかもしれませんが、こども食堂に関しては、市のホームページにこども食堂という項目があって、リンクから連絡先は分かりますが、何をしているかという紹介まではなかったりしますので、社協さんが、今そういった言葉を言っていただけるのは非常にありがたい話です。サロンも同じようなところがあって、最初は行政から始めたところも確かあったと聞きますけども、社協さんの方にお任せをしながら、補助金をもらっていただくシステム的なことであったり、会計の仕方であったり、そういったようなことも指導いただいているかと思えます。皆さん方の中でやっぱりこういった全体をコーディネートしたり意見交換をする場所っていうのは、なかなか今やりましょうという規模的に大変なことになるかもしれませんが、何か情報交換があたりとか、チラシ1個作ったら例えば社協さんに届けてみるだとか、そういったようなところから何か始めてみるのもいいのかなと思えますし、多くの方が、ボランティアのことで困ってみえると思えますけど、そうした窓口になってもらえるといいのかなとは思っています。社協さんにちょっと頼ってはいけませんけども、ぜひお願いをしていきたいと思っております。最後に、どうしても言っておきたいとか、これ何とかなりませんかとか、行政に対しての意見とか、そういうことを含めて、ありましたら一言ずつぐらい、ちょっと時間が残れば意見交換をしていただきたいと思うんですが、無いなら無いで結構でありますけども、また同じように順番にお願いします。

出席者① 愛知県こども食堂のネットワークを使わせていただいたり、愛知県の福祉局から物価高騰で少し支援をいただいたり、いろいろな支援センター、むすびえだったりとか、今、味の素の方と提携をして寄付をいただいたりしてるんですけども、やはり一番何がっていうと、赤字っていうところで、ボランティアでやっていることなので、決して収益が欲しいとかそういうわけではないんですけども、せめてボランティアの方だけでも恩返しができるような状態にしたいという思いがあります。そこを行政の方で補填していただいたりとか、どんな形でもいいのでしていただければいいなとは思っています。

市長 こども食堂さんなりの努力が必要ではありますけれども、多くの人に知っていただくことも、まずは大事なことだと思いますね。

出席者① ボランティアの募集や、先ほど、不登校のお子様方が来てこども食堂で交流でき

ましたというお話を聞かせていただいて、やはりうちもそういうこともしていけないといけないかなと思うと、そういうチラシじゃないですけども、行政の方でもっと広めていただけると、そういった方にも本当に来ていただけるのではないかなとちょっと思いますね。

市長 全然話は違うんですけど、学校に行けない子たちのフリースクールがあって顔を出したことがあるんですけど、みんな楽しく遊んでるんですね。そこには親も来ていたり、ボランティアでお手伝いする人もいたり、そういう週に何回とか月に何回かの交流の中で、明日は学校行ってみようかなという子もいたり、母親同士でいろんなことがあったり、そういう交流を、何をしているかを広く調べて知らせていくことは、すごく大切だと思います。

出席者② 不登校の子供さんが結構こちらには見えてますので、今実際そこから先のフリースクールを設立して、江南市で運用開始して、あっという間にもう結構な子供さんが見えています。このフリースクールもこども食堂も継続することがすごく大事だと思っておりますが、継続に対して、うちの場合は私個人から支出している金額がかなり大きいので、ご寄付をいただいても、継続できなくなる可能性があります。今回だと物価高騰、その前はコロナとか、ちょっと世の中の事情が変わるとご寄付ががたんまと減ったり、いろんな事情があると思うので、やはりその土台となる場所をお手伝いしていただけると、この街の中でそういう場所はすごく大切だと思っておりますので、継続するための、何らかの支援を行政としてしていただけると、本当に助かるなと思っております。

市長 行政としては、なかなかそこまで手が回らないというのが正直なところだと思います。多くの支援を求めてみえる方たちが、この制度は良いものだから継続したいと、例えば農業従事者が新たなオーガニックの方法でやっていきたいといったときに、3年間に限って延長します、3年間過ぎたらそれなりのノウハウを掴んだからご自身でやってくださいと言ってもなかなか続かないんですよ。そこが大きな悩みであって、とりあえずお金もらえるならやってみようということではなくて、やはり継続できるような体制に早く持っていくことが大事かなと思います。難しいかと思っておりますけども、同じテーマとして頭の中に入れておきます。

出席者③ 始めたきっかけとしては地域貢献が一番というところではあったんですけども、一度、来ていただいているお子さんに何が食べたいか自由に書いてもらったことがあったんですけども、実際それをやろうと思うと食材費の関係で難しく、結局メニューがマンネリ化しているのが現実です。今、お子様は基本無料、障害者の方は手帳を見せていただいたら0円、大人の方は500円いただいている、金額を変えることはないと思うんですけども、お子さんが食べたいメニューを出せていけたらなと思っております。

出席者④ 子供たちに食事を提供するんですけど、野菜が嫌いな子が多くて、もったいないのでお皿を用意して、手をつける前にここに置いてくださいと、それを食べたい子がいたら食べてもいいよというスタイルをとってるんですけど、やっぱり嫌いなものって薬物とかで、採れるときってたくさんいただくので、できるだけいろんな調理方法を考えてお出しはするんですけど、ちょっと余ったりするのがやっぱり課題ですかね。ハンバーグにも刻んだレンコンを入れたりして、感想を聞かせてもらうんですけど、こちらの勉強もかなりしないといけないのかなというのと、もう1つは、寄付を企業さんとか、むすびえさんとかにお願いするんですけど、そこで例えばこの企業に当たりましたってなって、すごく喜ぶんですけど、報告書をお出しするのに写真付きでメッセージをたくさん作成するのがとても大変です。

市長 野菜嫌いはほとんどのお子さんが当てはまるかと思えますけどね。やっぱり育つ環境ですね、あとは、親の指導がまず一番かな。そういった中で、こども食堂のようところでみんながこれおいしいよって食べてくれると絶対食べるような雰囲気ってできてきますよね。そういうのがいいのかなと思いました。

出席者⑤ こども食堂に100円いただいているんですけども、大体毎月1万円ぐらいは赤字な状況ですから、やはり長く継続して実施をしていくことを思いますと、補助金があると大変ありがたいなとは思っていますし、施設が公共交通の足がない場所にありますので、ボランティアの方、また食堂にご参加の方も含めて来やすいようにバス停であったりとか、足があると、大変またありがたいのかなという思いです。

市長 確かに、これからの福祉施設は駅前近くにとということで、大きく転換をされてますよね。ただし、江南市においては河野町が発祥の地ということで、その自負心がすごく高い中で、ただお見舞いに来ていただく人だとか、交流するにあたっては駅前のほうがいいよねと変わりつつあって、そこのところがなかなか行政だけでは難しいと思えますけども、バスも走っていませんけども、今のところはその予定というのは難しいかと思えます。

出席者⑥-2 先ほどオリーブさんのこども食堂に来られた子達の相談の話があったんですが、私たちが気になる世帯、子供さんもいらっしゃいます。来年、江南市では重層的支援体制整備事業が始まっていくので、その時にその気になる方へアウトリーチを行ったりとか、それを情報共有、連携していろんな関係機関、団体さんと支援につなげていく仕組みが始まりますので、社会福祉協議会のアウトリーチの事業と参加支援の事業を受託予定といいますか、そのような方向で進めています、このような連絡会じゃないですけども、情報共有しながらそういった方々の支援につなげていったときに、我々個人情報に困らないんですね。本人に聞くしかないんですけども、こども食堂どうこうじゃなく、子供全体の支援を考えると、そういったところを誰がどのようにやっていくのかということ、皆さんが困ったところを何となくモヤモヤするんじゃなくて、こういうところにつなげてもらえればうまく連携できますみたいな仕組みができてくると、多世代、他機関とのつなぎ方もできるんじゃないかなと思っています。

市長 やっぱり間に入っただけの方も必要ですし、そうした相談体制ができるようなシステムを作っていく、また補助が欲しいという要望をどう取りまとめていくかという重要な問題ですね。本当にありがとうございました。行政として、お聞きしたようなことで、どんどんやっっていけるといいかなと思うんですけども、非常に厳しい緊縮財政の中で今江南市も進めようとしております。勇気を持ってそして赤字ではあるけれども、こども食堂を開設し継続いただいているということに改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。